十二所地区への上水道拡張工事が完了

昭和63年から3カ年の計画で進められてきた十二所地区への上水道拡張工事は、10月に完了しました。11月19日に十二所体育館で竣工式が行われ、地元の人たちや市、工事関係者が出席して工事の完了を祝いました。

工事の概要

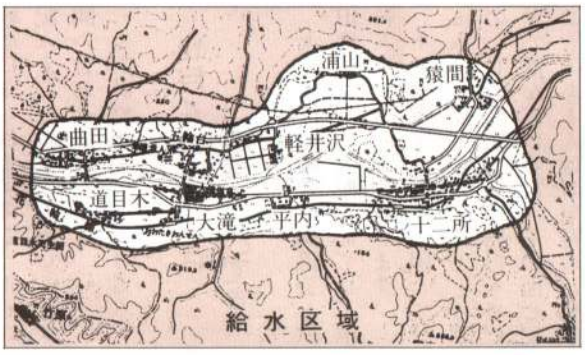
十二所地区では、大滝、猿間地域に簡易水道が布設されていたもののほとんどが自家水源に頼っている状況で、全般に水が不足していました。

このため、市では上水道の給水区域を十二所地区まで拡張することに決定。既設の簡易水道の給水区域を統合・整備する十二所地区統合簡易水道等施設整備事業として、昭和六十三年度から三カ年の計画で工事に着手してきました。

対象は、別所、葛原、沢尻の三地域を除いた曲田、道目木、大滝、軽井沢、浦山、猿間、平内、十二所の八地域です。

昭和六十三年八月から進められていた工事は、山館浄水場管理棟内への監視盤設置などの電気計装設備工事や軽井沢配水池の建設、山館浄水場起点配水池から軽井沢配水池までの送水管(六千四百四十九・二㍍)と配水池から各給水区域までの配水管(二万四千五百六・二㍍)の布設、給水区域内全域に消火栓六十基の設置などで、今年の十月にすべて完了しました。

給水は、工事の部分完了に伴い、今年の四月からは曲田、道目木、軽井沢、浦山の四地域に、八月には大滝、猿間の二地域に開始。十月の全面完成により、残りの平内、十二所の二地域にも開始しています。



安全な水を安定して供給

計画での給水量は、一日最大千四百二八㌔リットルですから、給水区域内の人口や現在の施設のほかに、大規模な施設の建設があっても十分賄えます。給水人口を三千五百七十人として算出すると、一人一日当たり約四百リットル、ドラム缶二本分ほどになります。

これからは、安全な水を安定して供給できますので、水不足の心配のない生活が送れるようになります。

フォト・ニュース

▼第2回東京きりたんぽ祭り開催

11月21日、東京都世田谷区民会館で第2回東京きりたんぽ祭りが開催されました。大館名物のきりたんぽと大館の観光PRを兼ねて昨年から開催。会場にはたくさんの人たちが訪ずれ、あきたこまちと比内鶏を材料に作った本場のきりたんぽを試食しながら、曲わっぱ太鼓の演奏を聞いたり大文字踊りを楽しんだりするなど、昨年以上に大盛況でした。

▲奥村重さん ようこそ大館へ

日系2世のブラジル人奥村重(しげる)さんが11月10日、全国知事会など4団体が実施した「ブラジル国日系人との交流を通じたふるさと創生事業」で来館。2泊3日の日程で市内の企業見学や市民との交流、親類との親交を温めるなど、釈迦内出身の父親の故郷でのひとときを過ごしました。奥村さんは、「父の故郷に来ることができてうれしい」と感激していました。